

# 普通会計バランスシート

(平成19年度末現在)

バランスシートは、市の財産、市債などの債務の状況や償還能力を明らかにします。バランスシートを見ることで、市にどのような財産がどのくらいあるのか、どのような負担がどれくらいあるのかを対比し、財産と負担が分かります。

借方		貸方	
資金の使い道の内容		資金の調達の内容	
[資産の部] 将来に引き継ぐ財産		[負債の部] これから負担する分	
1. 公共資産		1. 固定負債	
(1)有形固定資産 (構成比)		(1)地方債	357億6千万円
1 生活インフラ・国土保全	620億1千万円(47%)	(2)長期未払金	101億3千万円
2 教育	328億8千万円(25%)	1 物件の購入等	0円
3 福祉	89億6千万円(6%)	2 債務保証または損失補償	0円
4 環境衛生	39億1千万円(3%)	3 その他	101億3千万円
5 産業振興	168億9千万円(12%)	(3)退職手当引当金	77億5千万円
6 消防	8億2千万円(1%)	(4)損失補償等引当金	0円
7 総務	71億5千万円(5%)	固定負債合計	536億4千万円
有形固定資産計	1,326億2千万円(99%)	2. 流動負債	
(2)売却可能資産	6億9千万円(1%)	(1)翌年度償還予定地方債	38億6千万円
公共資産合計	1,333億1千万円	(2)短期借入金 (翌年度繰上充用金)	0円
2. 投資等		(3)未払金	13億2千万円
(1)投資及び出資金		(4)翌年度支払予定退職手当	0円
1 投資及び出資金	27億2千万円	(5)賞与引当金	4億円
2 投資損失引当金	-1億7千万円	流動負債合計	55億8千万円
投資及び出資金計	25億5千万円	負債合計	592億2千万円
(2)貸付金	4億7千万円		
(3)基金等			
1 退職手当目的基金	0円		
2 その他特定目的基金	39億2千万円		
3 土地開発基金	10億2千万円		
4 その他定額運用基金	1千万円		
5 退職手当組合積立基金等計	4億2千万円		
基金等計	53億7千万円		
(4)長期延滞債権	5億2千万円		
(5)回収不能見込額	-2億2千万円		
投資等合計	86億9千万円		
3. 流動資産			
(1)現金・預金			
1 財政調整基金	5億5千万円		
2 減債基金	3億1千万円		
3 歳計現金	8億6千万円		
現金預金計	17億2千万円		
(2)未収金			
1 市税	1億7千万円		
2 その他	1千万円		
3 回収不能見込額	-7千万円		
未収金計	1億1千万円		
流動資産合計	18億3千万円		
資産合計	1,438億3千万円		
		負債・純資産合計	1,438億3千万円
		[純資産の部] これまでの世代で負担した分	
		1. 公共資産等整備国庫補助金等	263億1千万円
		2. 公共資産等整備一般財源等	867億4千万円
		3. その他一般財源等	-289億5千万円
		4. 資産評価差額	5億1千万円
		純資産合計	846億1千万円

- 道路、公園、市営住宅等
- 小中学校、給食センター等
- 保育所、北部老人福祉総合エリア等
- 墓園等
- 農林道等
- 防火水槽等
- 市庁舎等
- 水道、下水道事業会計への出資金等
- 地域総合整備資金等
- 教育施設基金等
- 特別導入貸付牛購入基金
- 退職手当組合積立金のうち大館市の持分相当額
- 貸付金等のうち、回収不能となることが見込まれる金額
- 市債の償還のための積立金
- 前年度からの繰り越し現金

- 平成19年度末の市債残高(翌年度償還分を除く)
- 平成19年度末に全職員が退職した場合の手当の試算額
- 翌年度の償還元金
- 公共資産を取得するために使った国や県からのお金
- 公共資産を取得するために使われた市税など
- 公共資産を取得する目的以外に使われた市税など

資産の部では、有形固定資産(土地、建物、機械装置、備品など)は前年度の残高に19年度中に取得した資産を加える一方、19年度中の減価償却分を減じています。その結果、道路、市営住宅、公園などの生活インフラが最も多く、次いで学校、社会教育施設などの教育となっています。有形固定資産の合計額は、平成18年度末では1337億4千万円でしたが、平成19年度末には1326億2千万円で約11億円減少しました。

次に、投資等の額は、3億1千万円増加し86億9千万円となりました。これは下水道事業会計への出資金の増などのためです。

流動資産は、約7千万円減少し18億3千万円となりました。これは主に歳計現金約1億5千万円が減少したためです。

一方、負債の部では、固定負債の内、市債の残高は8億円減って、19年度末では357億6千万円となりました。

資産の合計額1438億3千万円から負債の合計額592億2千万円を引いた純資産合計は846億1千万円で前年度より17億5千万円(2.1%)増加し、これは固定負債が減少したためです。

### 作成方式の変更

平成19年度のバランスシート作成方法が、変更になったことに伴い、耐用年数が一部延長されたため、有形固定資産の残高が増加しています。また、前年度比較も、変更後の基準と比較しています。